

1月17日の日経新聞に「ペロブスカイト太陽電池」の記事が掲載されました。

(要約)

○ペロブスカイト太陽電池は基本的に3つのタイプに分かれます。

- ① フィルム型: 軽量で折り曲げ可能。積水化学や大倉工業が手掛けている。積水化学は政府から1572億5000万円の補助金を得て量産体制を整え、2026年3月に商用化すると発表している。
- ② ガラス型: パナソニックHDが建材と一体型になっているガラス型太陽電池を2026年から試験販売する。
- ③ タンデム型: シリコンとペロブスカイトなどの異なる材料を組み合わせ、それが異なる波長の光を吸収することで効率的に発電できる。力ネカやシャープが手掛けている。シャープは27年度の量産を目指し、力ネカは30年度の実用化を目指している。

○ペロブスカイト太陽電池は桐蔭横浜大学の宮坂教授が開発した日本独自の技術。経済産業省は40年までに2000万kwのペロブスカイト太陽電池を国内に導入する目標を掲げています。

\*「地球環境保護」、「持続可能な社会の実現」という観点から、力ネカの生分解性プラスチック「Green Planet」、ペロブスカイト太陽電池への関心が高まっています。社会に注目されているこの時期を逃がすことなく、事業化を進めて欲しいものです。皆さんで応援しましょう。